種
くさ
初編
全

天生齋凡上一風著

万物ときに盛衰あり流行の変化する也
挿花の風體も流行につれて時代に
且は草木の風姿も自然の万般造化自然
の妙なれは遠州家の流儀も末の世まで
かはらすしてはなはだに分ち其風體古今同
かくれなきを一変して其古人の取用ひしまゝ
かたちもかはりまた後人の捨る所ありて

茲に於て唯中庸の道によりて天地
自然の花枝をもつて三才の位を
立陰陽のかまひをもつて虚實の理を
無く和合を潤へて是を挿むものは法とし
其三才は位を使分ては先なる枝を天
位として是を体とし傍き枝を地の
位として是を留とし其体留の留り
入る枝を人の位として是を用とし則

天地陰陽和合して万物生じ其中に
人ハ天地に通徹するをもつて人地の
三才と唱ふなり又天地開けて形理の始と
なる所なれバ虚實陰陽の和合を
もつて草木を体用留は三才と組立る
是則伐るものは来ひかたちをなすと
もに顕はして所謂三生自然の花枝
かたんざんや先挿ものハ實客答應の

それ初しくる位も人方ハ物ちらん
平人まても客を請待するときハ座上に
是瓶の花をとこの人飢仕となるをハ則
礼義なる客先ふくまに感し是会く
まて瓶の花に目状よ猶こだしめ心を
冥うしむ家とおもうなりまた挿ものハ何りても
花なくてハ和合せさる故池をにいれ
挿ものハ動かさる物故陰なる花ハ時く

則くに発生も家ハなるまで湯なる春
挿ものと花とハ何ぞ陰湯和なりまた
挿ものハ主なり花ハ臣也是主臣和合
なりたる花ハ珠花をもつて池をもれ珠花と
いふハ正花の果咲をもつて珠花といふなり
また正花といふハ日月出る光の恵をうけ
草木の変る時をたがへれ四季ともに
咲出る花をいふ也またたとへハ常盤草とて

四季の差別なく挿しハ四季ともに
正花とは以て色と正花と以て時ハ三月
上旬ゟ四月上旬までを以て也其外ハ去なごに
花咲ぬ花しんの旬と称して花しんに余の
花を無合とさんは其余の時せつハ
撤却に季花なくなき時は従の花を無合て
入用し其無合をなくもて時ハ山野水辺の
出生をとく何し草木ある他の差別を

並て入りる当流のおきとをなるなり
其当しきハ悉皆一へ四季折々に門中の
春もちに集りてだしんを致して四季
文し時候の花を何して行ひて数難
挿華へ入る中に秀逸の花をうき残
二三難究なとうさ写しとり後に挑書
乃覯雅初心のものもなもらかやと
秘して秘免るをあつさにちまとめ

しと諸君子は進見數よびによりつけ
写書は法をも失ハは於後かなしし唯花形
のこなのまに寫しあめ葉蘭よ川柱初編と號
しあめ人乃於しみをかへりみれなかさ
代ふ入こうし侍り然
嘉永五とせの秋
天生齋一流誌

三州行三瓶合して
花とも十七本の入方也

三才まん

行まん

家元
天生齋一泒

だいん十三まんに
稜寿艸 三ヶん

体

体添流し

留

用

桜月斎
一枝

だいん十又まんに
水仙 二りと

体

用

体添うけ流し

留

天

地

人

耕月斎
一樂

柳ニ梅ニだいしん

体

留

用

天

地

人

光月斎

一甫

連翹ニだいしん

体

用

留

方円斎

一押

ばらん十一まいに
金せんむこゑん

体
用
留

正雲齋
一景

ばらん十三まい
朝がほ

体
用流
留

光円齋
一詳

ふじ
だしん
金せん花

体

留

天

人

地

用

春月齊
一風女

接骨木に
だしん

体

用

留

春壽齊
一賀

ばらん
なでしこ

体
用
留

千鶴斎
一蝶

きくみつん
ちよんあまん
かきつばた二輪

体
用
留

光玉斎
一葉

はくじ
だらん三まん

天

人

地

廣栄斎
一松

どらん五まん
きく三まん

体

用

体添流し

㐂栄斎
一華

だいとん二まん
小きく

体
留
用

十槿斎
一栄

だいとん十一まん
白れ大きく七まん
薄紅中きく七まん
赤れ小きく
夏なでしこ三まん

体
用
留

泉□斎
一貴

だいしん十七まん
小さく此河しよん

梅月斎
一枝

だいしん五まん
小さく此河しよん

体

留

用

光円斎
一詳

体
留
用
耕月斉
一樂

体
留
用
光月斉
一甫

だいらん三まん
中きく十一りん

体
天
地
人
用
留

方円斉
一柿

をとん九まん
中きくみつまん

体

用

留

天正庵
一子

だしん十一ほん
かきつばたしん

体

用

留

杢栄斎
一幸

紅葉
だじん十ほん

体

用

留

方円斎
一柳

梅のやしき
だしん七まん
ゑきく

体
用
留

賓正斉
一要

そゆきく みつまん
だしん ゐまん

体
用
留

泉光斉
一貫

体

用

留

梅月齋
一枝

体

ぢしん十七さい
かきくれ河しゆん

留

用

耕月齋
一樂

どしんあまれ
水仙一色

体

用

留

光円斎
一詳

梅と
どしんあまれ

体

用

留

光月斎
一甫

だらん二すん
まきく氏わしらん

体

用

留

十竹齋
一司

だらん十三まん
小きく北河しらん

体

用

留

天

地

人

方円斎
一抻

上口
はちめりどき
だいしんあまん

下口
だいしんあまん

体

留

天

人

地

用流

賓正斎
一要

だいしん八十あまんに
きく　四十あてん

体

体添流

留

用

家元
天生斎一汎

嘉永五壬子年秋

生花中庸三生流家元

浪花　天生齋蔵板